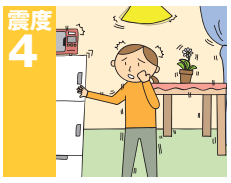
9　地震対策①

震度の目安

震度の違いでどのようになるの？

※この階級による震度（気象庁震度階級）の発表は、平成8年10月より実施
※下記は「気象庁震度階級関連解説表」を基に作成

地震の揺れと被害想定



- ほとんどの人が驚く
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる

- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる
- 棚の食器類や本が落ちることがある
- 固定していない家具が移動することがある

- 物につかまらないと歩くことが難しい
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある

- 立っていることが困難になる
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下することがある

- 這わないと動くことができない
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体崩壊が発生することがある

- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くこともある
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れることが多くなる

地震が発生したら

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに（コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに）。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない（ガラスの破片などでケガをする）。

デパート・スーパー

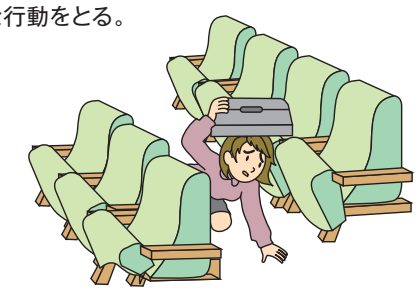
- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウやショーケースなどから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示に従う。あわてずに冷静な行動をとる。



屋外にいた場合

路　上

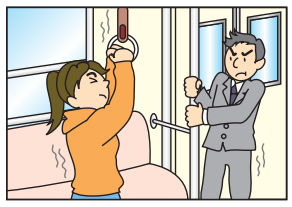
- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に近づかない。

車を運転中

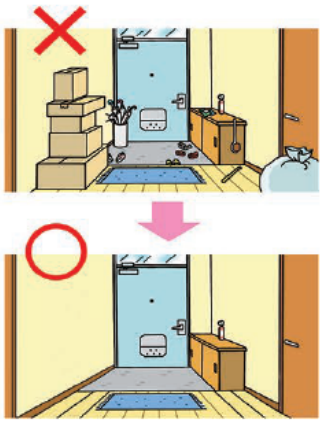
- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。

バスなどの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



家の中の防災対策　日頃から心がける。



玄関や通路に物を置かない

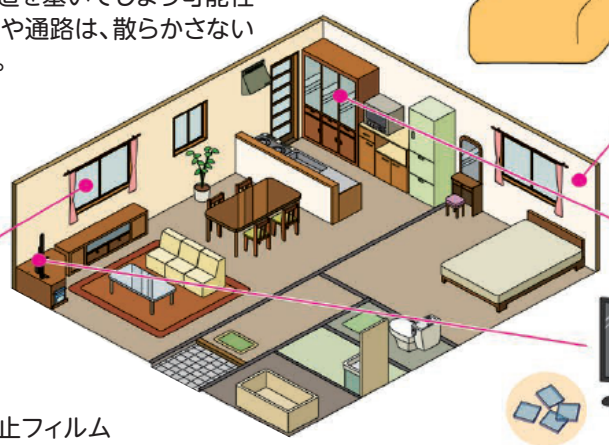
玄関や通路に物を置くと、避難時に邪魔になったり、逃げ道を塞いでしまう可能性があります。玄関や通路は、散らかさないようにしましょう。

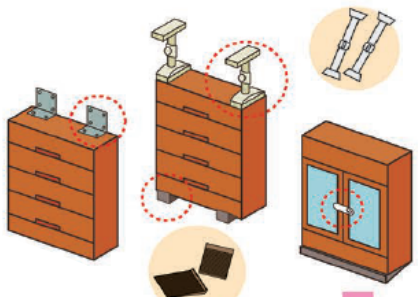
寝室には倒れやすい家具を置かない

就寝中の地震では、倒れる家具を避けることができません。出来るだけ置かないか、倒れづらい低い家具にしましょう。

近くに防災品を置く

就寝中の非常時などに、すぐに対応出来るように、寝る場所から手の届く所に、懐中電灯やスリッパなどを置いておきましょう。





窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る

窓ガラスが飛散するのを防ぐために飛散防止フィルムなどを貼りましょう。

家具の転倒やガラス飛散防止の対策を

地震による家具の転倒を予防する対策をしておきましょう。様々な種類の転倒防止グッズが販売されています。また、ガラスの飛散防止の対策も。

※大地震では、昭和56年以前の古い耐震基準で建てられた住宅は、倒壊する危険性が高くなります。